

## 平成26 年度 第2回学校協議会報告

平成26 年12月16 日（火） 17:30～19:20 於：本校会議室

- 1 委員 箕面市教育委員、高槻市議会議員、近隣中学校長、学校薬剤師、  
大阪市こども相談センター（スクールカウンセラー）、PTA会長
- 2 事務局 校長、事務部長、教頭、首席（総務部長）

- 3 内容 (1)校長挨拶と学校の近況報告  
・挨拶に引き続き、学校の近況報告（3年生の進学状況等について）  
・校長より資料について説明
- (2)協議  
・平成26年度学校教育自己診断について  
・平成28年度エンパワメントスクールについて  
・その他

- 4 おもな協議 ※テーマごとに再構成 ◆委員の発言 ○学校側の発言

### 【学校教育自己診断について】

○昨年度は選択肢が5段階で「どちらともいえない」があったが、今年度は「どちらともいえない」をなくし4段階にしたため、肯定的な回答・否定的な回答の率が増えている。

○保護者と生徒のアンケート結果で「授業が分かりやすいか」の差が大きい要因は今後検討する。

◆系列によって授業のわかりやすさの違いがあるか？

○学校教育自己診断では授業全体について質問しているが、各講座について授業アンケートを行っているので、それを見れば教科ごと・科目ごとの違いがわかる。

◆学校教育自己診断「校内に気軽に相談できる先生がいる」について、様々な相談があるが、授業についての質問も相談に入ると思う。授業で質問しても“授業を聞いていればわかる”“何が判らないのか”“教科書に書いている”と言われた生徒がいる。質問した意味がない。

### 【グループ学習について】

○数学については、グループ学習をして伸びてきている。友達に教えてもらい、わかるようになっていく。教員経験の長短に関わらず一部の教員がグループ学習を進めており、今後は、変わってくると思っている。教員の姿勢の問題である。勉強についても相談できる環境が必要である。

◆グループ学習は、成城高校の生徒が落ち着いているからできるのではないか？

○他の生指導課題の多い学校でもグループ学習を行って成果をあげている。

授業については、切れあじ、シャープさが必要であると思っている。

### 【わかりやすい授業について】

◆わかりやすい授業のための工夫をしているか？

○グループ学習が成果をあげている。また、生徒に直接たずねたら、若い教員は、よく授業を工夫しているという声があった。

◆授業スタイルをすべての教員が、授業の中で「課題 ねらい まとめ」の形で行っている。子どもには、すごく良い。高校生でも活用できると思う。

○授業の中で「課題 ねらい まとめ」の形を一部の教員が行っている。

○来年度からは、教員が他の教員の授業を見る機会をつくる。例えば、2・3年生は、午後カットにし、1年生の授業担当以外の教員が1年生の5・6限の授業見学に行く。同様に2年・3年についても行う。

◆教員が他の教員の授業を見る機会は、とても良い。大阪市の中学校では、すべての教員が研究授業を行うようになっている。本校は、水曜日の6限目に実施している。実施後全教員で授業見学班ごとによかったこと、わるかったこと、改善点などを付箋に書き、貼り付けて発表する。ワークショップなので、たくさんの意見が出る。

○授業で毎回ミニアンケートをとっている教員もいる。

◆寝ている生徒もいると思うが、諦めずに指導してもらいたい。

#### 【習熟度別授業について】

◆学力差が大きいと聞くが、習熟度別学習はどうするのか？

○来年度より英語、数学は習熟度別2クラス2展開を考えている。ただし時間割が組めるかが問題

#### 【学習障害等への対応について】

◆学習障がいの子への対応は、どうしているか？

○学習支援員がついて授業を受けている。5人配置している。人が入ることで教員が安心してしまって、配慮することを忘れ油断してしまうという意見もある。

#### 【ICTの活用について】

○平成28年度以降ICTが強化される。

◆箕面市の小・中学校では、すべてのクラスに電子黒板・すべての生徒にタブレットを導入している。若手教員は、すぐにICTを使いこなしていた。ベテランの教員も慣れてくれば使いこなしている。そのための、人的補償も必要である。児童・生徒は、大人が思っているより使いこなせている。ビジュアルで入るので、課題のある子供にもよい。

◆アプリケーションは、どれくらい使えるかで変わってくる。東南アジアのタイでは、全小・中学校でタブレットを導入している。教員が開発したアプリケーションを国が買い取り全学校で使用している。

◆理科は映像を見せると効果がある。実験のデータ処理にICTを活用し考察の時間を多くとっている場合が多いが、中学生については、考察よりもグラフを書かすことが重要である。自分で手を動かして考える力をつける必要がある。

◆ICTは道具であり、万能ではない。それをどう使うか、授業の構成が大事。ICTで授業をするためには、準備（ネタ集めと構成）が必要である。

授業が上手な教員はICTを使っても使わなくても上手である。授業が下手ならICTを使っても同様である。

#### 【エンパワメントスクール（E S）への改編について】

- E Sは成城にとってチャンスと思っている。しかし、勉強できない生徒の集まる学校と思われると在校生・保護者・卒業生にとって問題がある。
- ◆先行してE Sになる3校は遠い。成城は近いのでありがたい。学習環境が整い、お得な学校と認識している。
- 昔の情報のまま、いまだに成城はやんちゃな生徒が集まる学校と思っている中学校もある。
- ◆教員数は増えるのか？
- 現在でも、生徒11人に教員1人で充実している。問題となるのは、教室数が足りないこと。

#### 【教員の服装について】

- ◆教員は服装についても考えるべきである。生徒にとって先生が理想像である。
- 服装について、式典・入試等についてよく心得てくれている。但し、普段はそうとも言い切れない。工業系なので作業服はかまわないと言ってある。服装の基準についてわからないときは校長に確認するように職会で指示したが、再度徹底する。
- ◆他の委員からの発言があったように、教員についてもT P Oが必要である。生徒自身もまだ子供で、先生はなぜ良いのかという思いもある。
- ◆私学はスーツにネクタイをしている。塾も同様である。
- 職会で特に服装について強調する。

#### 【教員の挨拶について】

- ◆教員が外部の人に会った時には、挨拶するようにしてほしい。
- ◆市役所の職員は市民サービスの一環として挨拶するように言っている。学校では、先生が顔である。先生が一丸となって挨拶をするとイメージアップにつながる。

#### 【生徒指導】

- ◆毅然とした生徒指導だが、自律性との兼ね合いはどうしているか？たとえば、矛盾のあるルールはないか、生徒会等の自主性を活かしてルールを決めたりしているか？
- 現状では教員主導でやっているが、生徒指導の細かい点についてルールの変更も考えている。P T Aの役員からも聞いている。生徒の自主性については、教員の指導力が必要である。現在はできていないが、生徒会係の教員が、生徒会役員に部活動で頑張っている生徒をとりこんでいくように方向づけて取り組んでいる。E Sでは、生徒の考える力が必要になる。生活指導のルールは生徒・保護者に充分説明できるものであるか検討している。

## 5 その他

第3回学校協議会の予定 平成27年1月下旬を予定。  
学校経営計画について検討します。